

土木会通信 第5号 平成22年7月30日

土木学会論文奨励賞と 文部科学大臣表彰若手科学者賞をダブル受賞

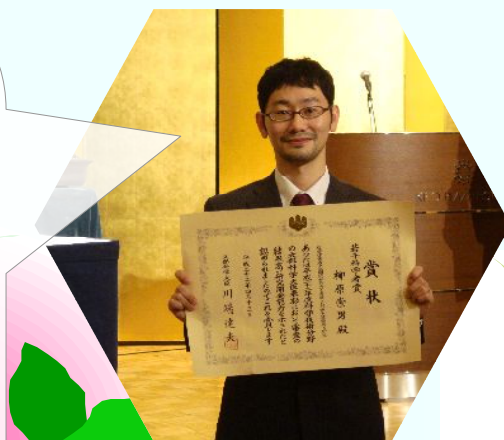
本学出身の柳原崇男氏は理工学部社会環境工学科を卒業後、大学院総合理工学研究科環境系工学専攻博士前期課程・後期課程を修了し、平成20年に「視覚障害者の歩行特性を考慮した歩行支援環境づくりに関する基礎的研究」で博士の学位を取得されました(主査:理工学部三星昭宏教授)。この内容に関する学会論文、「柳原崇男、三星昭宏:方向感覚紙簡易版(SDQ-S)を用いた視覚障害者の歩行能力測定と歩行支援システム評価への応用に関する研究—全盲者・重度弱視者を対象として—、土木学会論文集, DVol.64, 2008、が平成21年度土木学会論文奨励賞を受賞いたしました。また、同氏の一連の研究「視覚障害者の空間認知能力を考慮した移動支援整備の研究」が平成22年度科学技術分野文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞いたしました。

文部科学大臣表彰若手科学者賞は平成22年度においては、土木・社会基盤分野で1名でした。また大半の受賞者が国立の教育・研究法人研究者である中で、私学・民間研究者として受賞したことも注目されます。

柳原氏は平成21年3月まで兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所で研究員として勤務されるかたわら本学理工学部非常勤講師を続けられ、現在神奈川県総合リハビリテーションセンター・研究部・研究員の任についておられます。

柳原氏は本学理工学部社会環境工学科都市交通・ユニバーサルデザイン研究室で三星昭宏教授の指導の下に研究を続けました。研究業績は、視覚障害者の歩行支援のために必要な空間認知構造を究明し、その能力を評価するための方向感覚質問紙簡易版を開発するとともに、まちづくりとして歩行支援システムを整備する方法を提案し、国土交通省や府縣市と共同で社会実験を行ったことです。これからも本学出身の研究者が後に続くことが期待されます。

この度、土木学会論文奨励賞と文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞し、大変光栄に思っております。受賞した一連の研究は、私が近畿大学の大学院生時代に開始した研究であり、三星先生をはじめ、当時、都市交通工学研究室の諸先輩、同期、後輩の学生諸子には多大な協力を頂きました。この場をお借りしまして、皆様にお礼を申し上げます。研究室時代は、楽しく、また研究にも打ち込むことができ、いい思い出ばかりですが、今後もさらに飛躍できるよう一層精進していきたいと思います。



柳原 崇男

(H.12,院前期 H.14,院後期 H20 卒)

神奈川県総合リハビリテーションセンター勤務



土木学会論文奨励賞メダル

新任のご挨拶

富田 安夫 教授

4月より神戸大学から近畿大学・社会環境工学科・教授に赴任致しました富田安夫と申します。よろしくお願致します。昭和52年名古屋大学土木工学科に入学し、昭和62年3月に名古屋大学大学院・博士後期課程を修了しております。その後、交通計画コンサルタントの(財)計量計画研究所に4年間在籍した後、神戸大学工学部市民工学科(元・土木工学科)に19年間在籍しました。研究としては、都市計画や交通計画のための基礎情報である夜間人口や従業人口の都市圏内の空間分布を予測するためのシミュレーションモデルを中心とした研究を行っていましたが、ここ10年くらいは、バスや自転車を中心とした交通まちづくりや、市街地整備などの空間街づくりなどに力を入れています。研究室名としては、これまでの研究経緯と今後は様々な制約を遣り繰りしながらの持続可能な都市形成が必要ではないかという思いから、やや広めの看板ではありますが「都市のマネジメント研究室」としました。

近畿大学に赴任しまして、初代総長の世耕弘一先生の教育理念「教育は人に愛される人、信頼される人、尊敬される人を育成することにある」ということを知り、改めて襟を正される思いがしております。また、世耕先生は「温故知新」という言葉をよく口にされていたと聞きましたが、建設業界・土木業界は、「コンクリートから人へ」という社会の大きな変動の中で苦境に立っており、今まさに、新たな土木業界へと進化するために、「温故知新」が大切になっているのではないのでしょうか。「温故知新」を肝に銘じて私も少しでも努力していかなければと気持ちを新たにしております。もう一点、教育・研究に関して思っていることは、従来の教育研究は、「分析」すなわち「科学知」が重視され過ぎていた様な気がします。「総合」すなわち「デザイン能力」や「芸術的センス」のウェイトも高めていくべきであると思っております。大学の研究者は「分析」に偏る傾向があるので、一層社会に開かれた大学が求められているように思います。ここに土木会の皆様のご支援・ご協力が必要となっております。



写真1 マッターホルン(スイス)



写真2 箕面の滝



写真3 神戸市立・森林植物園

私は趣味と言えるものはありませんが、最近、哲学、社会学、政治学、経営学、経済学など人文社会科学について勉強することを楽しみにしております。また、大学時代にワンダーフォーゲル部に所属していたこともあり、近隣の山や町の散策や、その地域や町の歴史を調べたりすることに時間を見つけては楽しんでおります。写真1は13年前にロンドン大学に研究員として長期出張したときに、夏休みに1週間スイスに出かけた折の写真です。写真2、3は、近年、近場に散歩に出かけました折に撮ったものです。

現在、52歳ですので今しばらく近畿大学にお世話になるかと思っております。微力ではございますが、この間精一杯頑張りたいと思っております。近畿大学土木会の皆様には、学生の就職やJABEEなどのさまざまな機会を通じてご協力・ご支援を賜ることになるかと存じますが、その折には、よろしくお願ひ申し上げます。

都市交通・ユニバーサルデザイン研究室は、昭和49年(当時の名称は都市交通研究室)に三星が近畿大学に赴任して以来36年の長きにわたって存続してきました。土木計画学、交通工学、バリアフリーをテーマとしてきましたが、この10年ほどはバリアフリー、ユニバーサルデザイン、福祉のまちづくり、地域交通計画といった、まちづくり分野と医療・保健・福祉分野にまたがる境界の研究のウェイトが高くなっています。体の不自由な障害者、高齢者、妊産婦などの人々を対象としたバリアフ



車椅子実験(研究室)

リー研究にはとくに力を入れています。「人々の多様性を重視した設計」をユニバーサルデザインとよびますが研究室の名称にそれを冠しています。この間多数の論文を発表しましたが、とくに高齢者・障害者の交通需要推定法、計画論、評価論などの計画システム研究、車いす者の人間工学的分析、視覚障害者の空間認知とまちづくり施策などの障害者の個別問題および地域のモビリティ確保と公共交通サービスに関する研究蓄積を積み上げてきました。これまで三星が主査を務めた博士号取得者は、北川博巳、玉井昭子、柳原崇男、池田宏史の諸君であり、いずれもユニークで高いレベルの研究成果をあげています。柳原君は平成20年に土木学会論文奨励賞、平成22年には希少価値の高い文部科学大臣表彰若手研究者賞をダブル受賞していますがこれは全国的にも例の少ないものであります。



堺市現地点検風景

研究室はこれまで学科の中でも学生数、大学院生数の多い研究室のひとつになっており、外部との共同研究も活発なため人の出入りが多い部屋であるといえます。教育・研究スタイルとして、机上で議論

するだけでなく、まちづくり現場を重視し、ワークショップや現地演習に積極的に参加するようにしています。2000年からの交通バリアフリー法による各市の移動円滑化基本構想づくりには多数の学生が参加しました。

就職先は学科が社会環境工学科になってから建設系以外も含めてバラエティに富んでいます。研究室の性格上公務員やコンサルタントに行った人はかなりな数になっております。ゼミ生の結束が堅く、助け合う気風は代々引き継がれていると思います。

三星は近年、日本福祉のまちづくり学会会長、第10回 TRANSED(高齢者・障害者交通国際会議)の大会長、大阪交通科学研究会会長、土木学会土木計画学研究委員会副委員長など学協会の役員を多数つとめてきました。まちづくり現場では、大阪、堺、枚方、豊中、富田林、東大阪、八尾、守口、岸和田、阪南、柏原などの各市をはじめ近畿の多数の市でバリアフリー等の計画策定に委員長、委員として参画しています。国交省、府県の政策策定にも委員として多数参加しました。個々の施設計画・設計としては、神戸中突堤船客ターミナルや阪急伊丹駅の整備検討委員長を務めましたが、これらの施設の計画・設計は多くの賞を受賞しました。これらの経験は講義の社会基盤計画学、交通システム学や大学院の特論の内容に反映されています。

学生諸君は夜遅くまで頑張っていますが、知的でワクワクするような新しいテーマに切り込む楽しさからでしょうか。この心と志を生涯忘れないでほしいと思っています。



阪急伊丹駅



神戸船客ターミナル

「梅土会」のご紹介

竹内 弘志 (梅土会会長 昭和52年卒業)

表題の「梅土会」の会長を務める昭和52年に近畿大学土木工学科を卒業しました竹内です。

最初から少々堅い話になりますが「梅土会」とは近畿大学理工学部土木工学科、社会環境工学科卒業生並びに教員有志を以て組織し、会員相互の親睦と学園の発展への協力を期することを目的としています。本学科の同窓会組織として「近畿大学 土木会」があり、6000名近い会員と本学科教員(特別委員)で構成されています。非常に大きな組織となっており、なかなか迅速な活動が困難でありますので、実働組織として別途「近畿大学 梅土会」があります。

ざっくばらんな話で行けば卒業生の集まりです。土木工学科、社会環境工学科の卒業生であれば何方でも参加して頂けます。

主な活動としては

- ① 総会、講演会、懇親会 : 年に一回、通常で有れば6月後半から7月上旬に開催します。
- ② 忘年会 : これも年に一回、新年会に変わることもあります。

以上、年に2回大きな集会を開催していますので卒業されて大学のOB会に参加されたい方や卒業を控えて大学との繋がりを大事に続けたい方は是非米田先生(副会長)、東山先生(幹事)や私に声をかけて下さい。梅土会に入っている会員の方にでもかまいません。

話は変わりますが、私は現在非常勤講師として社会環境工学科3回生の環境設計演習を受け持っていますが、土木工学科から社会環境工学科と名称が変わり授業のカリキュラムも入学してくる学生気質も時代と共に大きく変わってきていますが、卒業すれば同じ大学の同じ学科卒業生としての先輩、後輩に変わりはありません。

是非この記事を読み一度参加してみようと言う先輩、後輩がおれば連絡をお待ちしています。

【総会・懇親会の写真】



《掲載原稿募集のお願い》

土木会では土木会通信に掲載する原稿を会員の方より募集しております。仕事のこと趣味のことなどを土木会通信に掲載して会員の皆様にお届けしませんか？

詳しくはメールにてお問い合わせ下さい。

編集後記：暑中お見舞い申し上げます。梅雨が明けたとたん猛暑となった今夏を会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか？土木会通信も号を重ねて第5号を発信することができました。これからも会員の皆様とともに歩んで行ければと思っています。暑いこの時期どうかお身体ご自愛下さい。

近畿大学土木会：〒581-0811 八尾市新家町8-23-1

TEL06-6721-2332 内線4654

e-mail: dobokkai@civileng.kindai.ac.jp

<http://wsb.cc.kindai.ac.jp/civileng/ri25/cse/dobokukai/hyoushi.htm>